

令和元年度「全国水産試験場長会会長賞」受賞

11月19日（火）に新潟市で開催された令和元年度全国水産試験場長会全国大会において、当場のサケ原虫病対策チーム（内水面資源部 水野 伸也 研究主幹、宮本 真人 主任主査、さけます資源部 畑山 誠 研究主幹）による「放流用サケ稚魚の原虫病総合的予防技術の開発」が会長賞を受賞しました。

この会長賞は、全国の水産試験場で実施された試験研究を対象に①地域水産業の発展への貢献、②試験研究成果の今後の水産試験研究発展への寄与の観点で審査を行い、優秀な研究業績に対して授与されるものです。

今回サケ原虫病対策チームが受賞した「放流用サケ稚魚の原虫病総合的予防技術の開発」では、まず、サケのふ化放流事業での稚魚の飼育過程で発生する原虫病について、原因虫遺伝子の検出定量系を確立し、この系を用いて感染源及び感染経路を明らかにしました。次にこの感染経路を遮断する予防技術として、食酢による飼育池の消毒と中圧紫外線照射による用水の殺菌が有効であることを示しました。また、抗菌性のあるハーブ精油を添加した配合飼料を稚魚に与えることにより、稚魚の抗病性が向上して原虫病予防に効果があることを明らかにし、ハーブ給餌による原虫病予防技術を開発しました。

さらに、サケ原虫病対策チームではハーブ給餌による予防技術について2件の特許を取得するとともに、共同出願した民間企業が製品化した「サケ稚魚用天然飼料サーモンリキッド MM」を用いて現場での試験を行い、原虫病の発生が減少すること証明し、従来の食酢食塩水浴作業が大幅に低減できることを実証しました。

本研究で開発したサケのふ化放流事業における原虫病の感染経路遮断と稚魚の抗病性向上の両技術は既に北海道内ばかりでなく本州の一部地域にも普及しており、サケ増殖事業の喫緊の課題を解決し、沿岸サケ資源の安定化に大きく寄与することが期待される点が高く評価され、今回の受賞に至りました。



※サケ原虫病対策チームを代表して全国水産試験場長会 川島会長から表彰状を受け取る水野伸也 研究主幹



※水野伸也 研究主幹による受賞記念講演の様子